

妙法蓮華經。隨喜功德品。第十八

爾の時に彌勒菩薩摩訶薩、佛に白して言さく、

世尊、若し善男子・善女人あつて是の法華經を聞きたてまつりて隨喜せん者は、幾所の福をか得ん。而も偈を説いて言さく、

世尊滅度の後に 其れ是の經を聞くことあつて

若し能く隨喜せん者は 幾所の福をか得べき

爾の時に佛、彌勒菩薩摩訶薩に告げたまわく、

阿逸多、如來の滅後に、若し比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷及び餘の智者、若しは長若しは幼、是の經を聞いて隨喜し已つて、法會より出でて餘處に至らん。若しは僧坊にあり、若しは空閑の地、若しは城邑・巷陌・聚落・田里にして、其所聞の如く、父母・宗親・善友・知識の爲に、力に隨つて演說せん。是の諸人等聞き已つて隨喜して復行いて轉教せん、餘の人聞き已つて亦隨喜して轉教せん、是の如く展轉して第五十に至らん。阿逸多、其の第五十の善男子・善女人の隨喜の功德を我今之を説かん、汝當に善く聽くべし。若し四百萬億阿僧祇の世界の六趣・四生の衆生、卵生・胎生・濕生・化生・若しは有形・無形・有想・無想・非有想・非無想・無足・二足・四足・多足、是の如き等の衆生の數にあらん者に、人あつて福を求めて、其の所欲に隨つて娛樂の具皆之に給與せん。一一の衆生に、閻浮提に滿らん金・銀・瑠璃・砗磲・碼瑙・珊瑚・琥珀・諸の妙なる珍寶、及び象馬・車乘・七寶所成の宮殿・樓閣等を與えん。是の大施主、是の如く布施すること八十年を滿ち已つて、是の念を作さく、我已に衆生に娛樂の具を施すこと意の所欲に隨う。然るに此の衆生皆已に衰老して、年八十に過ぎて髮白く面皺ん

で、將に死せんこと久しからじ。我當に佛法を以て之を訓導すべし。

即ち此の衆生を集めて、宣布法化し示教利喜して、一時に皆、須陀洹道・斯陀含道・阿那含道・阿羅漢道を得、諸の有漏を盡し、深禪定に於て皆自在を得、八解脱を具せしめん。汝が意に於て云何。是の大施主の所得の功德寧ろ多しとせんや不や。

彌勒、佛に白して言さく、

世尊、是の人の功德甚だ多くして無量無邊なり。若し是の施主、但衆生に一切の樂具を施さんすら功德無量ならん。何に況んや阿羅漢果を得せしめんをや。

佛、彌勒に告げたまわく、

我今分明に汝に語る、是の人一切の樂具を以て四百萬億阿僧祇の世界の六趣の衆生に施し、又阿羅漢果を得せしめん。所得の功德は是の第五十の人の法華經の一偈を聞いて隨喜せん功德には如かじ。百分・千分・百千萬億分にして其の一にも及ばじ。乃至算數・譬諭も知ること能わざる所なり。阿逸多、是の如く第五十人の展轉して法華經を聞いて隨喜せん功德、尙お無量無邊阿僧祇なり。何に況んや、最初、會中に於て聞いて隨喜せん者をや。其の福復勝れたること無量無邊阿僧祇にして、比ぶること得べからず。

又阿逸多、若し人は是の經の爲の故に僧坊に往詣して、若しは坐し若しは立ち須臾も聽受せん。是の功德に縁つて、身を轉じて生れん所には好き上妙の象馬・車乘・珍寶の輦輿を得、及び天宮に乗ぜん。若し復人あつて講法の處に於て坐せん。更に人の來ることあらんに勸めて坐して聽かしめ、若しは座を分つて坐しめん。是の人の功德、身を轉じて帝釋の

坐處、若しは梵天王の坐處、若しは轉輪聖王の所坐の處を得ん、

阿逸多、若し復人あつて餘人に語つていわく、經あり法華と名けたてまつる、共に往いて聽くべしと。即ち其の教を受けて乃至須臾の間も聞かん。是の人の功德は、身を轉じて陀羅尼菩薩と共に一處に生ずることを得ん。利根にして智慧あらん。百千萬世に終に瘡癩ならず。口の氣臭からず。舌に常に病なく、口にも亦病なけん。齒は垢黒ならず、黄ならず、疎かず、亦缺落せず、差わず、曲らず。唇下垂せず、亦褻縮ならず、麤澀ならず、瘡疹ならず、亦缺壞ならず、亦喎邪ならず、厚からず、大ならず、亦黧黒ならず、諸の惡むべきことなけん。鼻匾匾ならず、亦曲戾ならず。面色黒からず。亦狹長ならず、亦竅曲ならず、一切の熨うべからざる相あることなけん。唇・舌・牙・齒悉く皆嚴好ならん。鼻修くして高直に、面貌圓満し、眉高くして長く、額廣く平正にして人相具足せん。世世に生れん所には佛を見たてまつり法を聞いて教誨を信受せん。

阿逸多、汝且く是れを觀ぜよ。一人を勸めて往いて法を聽かしむる功德此の如し。何に況んや、一心に聽き説き讀誦し、而も大衆に於て人の爲に分別し、説の如く修行せんをや。

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

若し人法會に於て 是の經典を聞くことを得て

乃至一偈に於ても 隨喜して他の爲に説かん

是の如く展轉して教うることを 第五十に至らん

最後の人の福を獲んことを 今當に之を分別すべし

如し大施主あつて 無量の衆に供給すること
具さに八十歳を満てて 意の所欲に隨わん
彼の衰老の相の 髮白くして面皺み
齒疎き形枯竭せるを見て 其の死せんこと久しからじ
我今應當に教えて 道果を得せしむべしと念うて
即ち爲に方便して 涅槃眞實の法を説かん
世は皆牢固ならざること 水沫・泡・焰の如し
汝等 咸く應當に 疾く厭離の心を生ずべし
諸人は是の法を聞いて 皆阿羅漢を得
六神通・三明 八解脱を具足せん
最後第五十の 一偈を聞いて隨喜せん
是の人の福彼れに勝れたること 譬諭を爲すべからず
是の如く展轉して聞く 其の福尙お無量なり
何に況んや法會に於て 初に聞いて隨喜せん者をや
若し一人を勧めて
將引して法華を聽かしむることあつて
言わん此の經は深妙なり 千萬劫にも遇い難しと
即ち教を受けて往いて聽くこと 乃至須臾も聞かん
斯の人の福報 今當に分別し説くべし
世世に口の患なく 齒疎き黄黑ならず
唇厚く褰缺ならず 惡むべき相あることなけん
舌乾き黒短ならず 鼻高修にして且直からん
額廣くして平正に 面目悉く端嚴にして
人に見んと憙わるることを爲ん 口の氣臭穢なくして
優鉢華の香 常に其の口より出でん
若し故らに僧坊に詣いて 法華經を聽かんと欲して
須臾も聞いて歡喜せん 今當に其の福を説くべし

後に天・人の中に生れて 妙なる象馬車
珍寶の輦輿を得 及び天の宮殿に乗ぜん
若し講法の處に於て 人を勸めて坐して經を聽かしめん
是の福の因縁をもつて 釋梵轉輪の座を得ん
何に況んや一心に聽き 其の義趣を解説し
説の如く修行せんをや 其の福限るべからず